

平成 21 年度
中山間盛り上げ隊等の効果測定調査報告書

平成 22 年 3 月

中山間盛り上げ隊等の効果測定委員会

はじめに

本報告書は、「行政と NPO が協働する『新たな公』による県民総力戦の新みやざき創造事業」として、宮崎県の委託を受け、NPO 法人みんなのくらしターミナルが実施している事業の成果を検証することを目的としたものである。ただし、ここでは、単に、事業成果の第三者評価を行うことに加えて、次年度以降の当事業をよりよいものとしていくための課題を探ることを大きな目的の 1 つとして考えている。

この事業では、コーディネーターの養成と派遣によって、「地域の住民が自らの地域を分析し、将来の目指す姿を考え、主体的に行動する『自助』『互助』による新しい地域づくり」を支援することが目指されているが、ここではまず、平成 21 年度の事業の成果を検証するにあたって、コーディネーターの派遣によって、実施される具体的な活動としての「中山間盛り上げ隊」の活動と、「地域づくり意見交換会」の活動について、これらの活動に関わった地域の住民および盛り上げ隊への登録者が、これらの活動について、どのような意見を持っているかを調査によって明らかにし、それに基づいて、事業の成果の検証を行うこととした。そして、これらの活動が、「地域住民が自ら主体的に行動する『自助』『互助』による新しい地域づくり」に、どのようにつながっているかについては、単年度での成果検証よりも、今後の事業継続を踏まえ、次年度以降の課題の析出と複数年の事業終了時の成果検証のための現状把握に主眼をおくこととした。

本報告書が、当事業の今後の継続・発展のための道標となり、さらには、中山間地域に限らず、宮崎県全体で、地域の活性化のために行われるさまざまな取組へ何らかのヒントを提供できるようなものとなることを願いたい。

平成 22 年 3 月

中山間盛り上げ隊等の効果測定委員会

代表 高橋 利行

(宮崎大学 教育研究・

地域連携センター准教授

目 次

はじめに

目次

第 1 章 事業の概要 1-2

第 2 章 調査の概要 3-5

第 3 章 調査の結果と分析 6-18

第 4 章 今後の課題 19-20

資料

1) 調査票・単純集計 21-26

2) 平成 21 年度中山間盛り上げ隊派遣の様子 27-37

3) 平成 21 年度地域づくり意見交換会の様子 38-39

第1章 事業の概要

本報告書における評価の対象となる事業の概要を、事業の企画提案書と NPO 法人みんなのくらしターミナル代表初鹿野聡氏への聞き取りからまとめると、以下の通りである。

(1) 事業名と受託団体

事業名：行政と NPO が協働する「新たな公」による県民総力戦の新みやざき創造事業

受託団体：NPO 法人みんなのくらしターミナル

(2) 事業の目的・趣旨

事業の企画提案書では、目的・趣旨について、次のように述べられている。

これから直面する人口減少社会のさまざまな課題に対応するためには、「新たな結び」ともいえる共助のシステムを構築する必要があることから、あらゆる分野を横断的にコーディネートできる人材を育てこれを活用することにより、県民の当事者意識の醸成による県民総力戦を具現化し、新しい宮崎を創造することを目的とします。

(3) 事業の内容

盛り上げ隊の派遣を行うステップを、次の①～③のようにとらえ、その①および②について、本事業により雇用する専門のスタッフの派遣を行い、コーディネートする。

①住民が自らの地域を分析し、将来の目指す姿を考える。

②行政依存から脱却し、主体的に行動する「自助」「互助」に取り組む。

③それでも不足するものを盛り上げ隊の支援により補う。

これにより、地域住民の「共助」や「協働」意識の醸成と盛り上げ隊の有効活用が図られ、持続可能な支援システムとして機能していくことが期待される。

また、初年度となる平成 21 年度には、都城市（高崎町）、西米良村、諸塚村、日之影町などを「盛り上げ隊」モデル地域として、これらの地域を中心に事業を実施する。

なお、専門のスタッフには、同法人の指導の下、OJT により研修・実践を積むことでコーディネーターとしての実力を養成していく。

さらに、宮崎県が実施する他の事業などとの連携も視野に入れ、県内全域を対象に、分野や市町村を横断した総合的な地域のプロデュース事業を行う。

(4) 事業全体の目指すもの

人口減少と高齢化の波は、過疎化と相俟って中山間地域で早期に現れている。そして、今後は都市部においても人口減少と高齢化などによるさまざまな問題・課題が発生することが予想され、中山間地域に関わらず社会全体のシステムとして見直すことが必要となってくる。その意味では、現在の中山間地域はこれから到来する時代における社会の先進例ともいえ、中山間地域の問題・課題に対しても、中山間地域に限定せず宮崎県全体を視野に入れた新しい社会システムとして構築していくことで、今後の宮崎県のあり方を示すのみならず、全国に先駆けた取組ともなり得る。

そこで、本事業では、中山間地域の状況が全国的に共通していることを踏まえ、本県が

全国に対し先駆的なモデルを示すチャンスとも考え、あらゆる政策や事業、現象などを総合的に判断、活用、検証しながら、これからの時代に対応した地域社会のシステムを構築することを目指している。

3年間での達成目標としては、「事業範囲内での事業の自立化」を設定し、同法人が関係するあらゆる事業や活動を結びつけ、住民が主体となり内発的に価値を生み出し、異質の系統とも連携しうる新しい共助のシステムを構築し、限定的ではありながらもモデル的な事業として行政との協働も視野に入れたシステムの自立化を図っている。

(5) 事業の年度計画

1) 平成 21 年度

- ①コーディネーターの派遣等による中山間盛り上げ隊派遣事業とタイアップした「交流人口」を生むためのシステム整備
- ②コーディネーターの派遣による、住民の当事者意識の醸成のための地域づくり意見交換会の開催
- ③地域に対する継続的な支援活動

2) 平成 22 年度

- ①コーディネーターの派遣等による中山間盛り上げ隊派遣事業とタイアップした「交流人口」を生むためのシステム整備
 - ・人的、エリア的な拡大
 - ・自立できるシステムとしての具体的なシステム案の構築
- ②交流人口によって解決可能な一次産業を中心とした地域課題発掘調査
- ③コーディネーター派遣による住民の当事者意識の醸成のための地域づくり意見交換会の開催
- ④地域に対する継続的な支援活動

3) 平成 23 年度

- ①コーディネーター派遣による中山間盛り上げ隊派遣事業とタイアップした「交流人口」を生むためのシステム整備
 - ・自立のためのシステムの試験運用
- ②地域課題発掘調査に基づくマッチングの I C T 等によるシステム構築と試験運用
- ③コーディネーター派遣による住民が主体的に地域に関わるための基礎づくりとなる、当事者意識の醸成のための地域づくり意見交換会の開催
- ④地域に対する継続的な支援活動

第2章 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、NPO法人みんなのくらしターミナルが、宮崎県の委託を受け、「新たな公」による県民総力戦の新みやざき創造事業として取り組んでいる、「中山間盛り上げ隊」の派遣や「地域づくり意見交換会」の開催について、その成果を把握し、今後の課題を探るために、これらの活動に参加した人々の活動に対する意見等を把握することを目的としている。

(2) 調査内容

上述のような目的に従い、今回の調査では、「中山間盛り上げ隊」については、地域の住民を対象とした調査（以下、〔住民〕とする）と隊員を対象とした調査（以下、〔隊員〕とする）、「地域づくり意見交換会」については、その参加者を対象とした調査（以下、〔意見交換会〕とする）の合わせて3つの調査を企画し、それぞれ次のような調査内容を設定した。

〔住民〕

1. 活動の情報源
2. 活動の必要性
3. 活動の評価
4. 活動の改善点
5. 活動の継続希望
6. 希望する活動内容
7. その他（属性等）

〔隊員〕

1. 活動の情報源
2. 活動の必要性
3. 活動の評価
4. 活動の改善点
5. 参加のきっかけ
6. 希望する活動内容
7. その他（属性等）

〔意見交換会〕

1. 参加のきっかけ
2. 活動の必要性
3. 活動の評価
4. 活動の改善点
5. 活動の継続希望
6. 活動への要望
7. その他（属性等）

(3) 調査の対象

〔住民〕：中山間地盛り上げ隊が参加した活動に関わった地域の住民

〔隊員〕：中山間地盛り上げ隊に登録している隊員

〔意見交換会〕：地域づくり意見交換会への参加者

(4) サンプルの抽出

有意抽出法。具体的には、次の通りである。

〔住民〕：宮崎県から派遣されている駐在員及び中山間盛り上げ隊派遣を依頼した地域住民に依頼し、活動に関わった住民の中から任意に抽出してアンケートを依頼した。

〔隊員〕：中山間盛り上げ隊に登録のある隊員に対し、メールでアンケートへの協力依頼

を行い、協力する旨返信のあった隊員に対して活動への参加の有無に関わらずアンケートを依頼した。

〔意見交換会〕：宮崎市、延岡市、西都市、高鍋町の地域づくり意見交換会に参加経験を持ち、本調査時直近の本会に参加した住民、並びに日向市の地域づくり意見交換会に参加の意欲を示した住民にアンケートを依頼した。

（５）調査の方法

郵送法と配付回収法の併用による質問紙調査。それぞれの調査における配付・回収の方法は以下の通りである。

〔住民〕：①地域の受け入れ担当者に郵送→各住民へ配付→郵送にて回収（都城市、五ヶ瀬町）

②地域の行政担当者に郵送→各住民へ配付→郵送にて回収（西米良村、諸塚村、日之影町）

〔隊員〕：郵送による配付・回収

〔意見交換会〕：郵送による配付・回収（西都市のみ直接手渡しによる配付・回収）

（６）調査実施時期

平成 22 年 3 月 1 日～ 3 月 25 日

（７）回収数と回収率

それぞれの調査の回収数、回収率等は以下の通りである。

表 2-0 各調査の配付・回収数（率）

	配付数	回収数	有効回収数	回収率	有効回収率
〔住民〕	160	96	80	60.0 %	50.0 %
〔隊員〕	77	72	72	93.5 %	93.5 %
〔意見交換会〕	67	50	48	74.6 %	71.6 %

（８）回答者のプロフィール

① 〔住民〕調査回答者のプロフィール

表 2-1 〔住民〕調査回答者の性別（％）

男	女	無記入	計
73.7	25.0	1.3	100.0

表 2-2 〔住民〕調査回答者の年齢（％）

20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入	計
1.3	10.0	23.8	28.7	28.7	7.5	0.0	100.0

表 2-3 〔住民〕調査回答者の居住地（％）

都城市	西米良村	諸塚村	日之影町	五ヶ瀬町	その他	無記入	計
13.8	23.7	18.7	18.7	21.3	1.3	2.5	100.0

②〔隊員〕調査回答者のプロフィール

表 2-4 〔隊員〕調査回答者の性別 (%)

男	女	無記入	計
69.4	30.6	0.0	100.0

表 2-5 〔隊員〕調査回答者の年齢 (%)

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	無記入	計
1.4	8.3	20.8	32.0	29.2	8.3	0.0	100.0

表 2-6 〔隊員〕調査回答者の職業 (%)

会社員	公務員	自営業	農林漁業	パート・アルバイト	学生	無職	その他	無記入	計
36.1	34.8	6.9	2.8	6.9	1.4	4.2	6.9	0.0	100.0

表 2-7 〔隊員〕調査回答者の居住地 (%)

宮崎 市	都 城 市	延 岡 市	日 向 市	西 都 市	清 武 町	野 尻 町	国 富 町	綾 町	高 鍋 町	新 富 町	西 米 良 村	美 郷 町	高 千 穂 町	日 之 影 町	五 ヶ 瀬 町	県 外 ※	無 記 入	計
47.1	4.2	8.3	2.8	1.4	8.3	1.4	5.5	1.4	1.4	2.8	1.4	2.8	1.4	4.2	1.4	2.8	1.4	100.0

※県外は、熊本県と千葉県がそれぞれ1名(1.4%)ずつであった。

表 2-8 〔隊員〕調査回答者の活動への参加回数 (%)

0回	1回	2回	3回	4回	5回以上	無記入	計
34.6	31.9	18.1	5.6	4.2	1.4	4.2	100.0

③〔意見交換会〕調査回答者のプロフィール

表 2-9 〔意見交換会〕調査

回答者の性別 (%)

男	女	無記入	計
62.5	35.4	2.1	100.0

表 2-10 〔意見交換会〕調査回答者の年齢 (%)

20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無記入	計
4.2	22.9	25.0	12.5	29.1	6.3	0.0	100.0

表 2-11 〔意見交換会〕調査回答者の意見交換会への参加回数 (%)

0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回以上	無記入	計
18.7	6.3	18.8	25.0	6.3	14.5	2.1	6.2	2.1	100.0

第3章 調査の結果と分析

(1) 中山間盛り上げ隊－地域住民向け－調査の結果と分析

①活動の情報源

まず、中山間盛り上げ隊が参加した活動に関わった地域の住民が、どのようにして、この活動を知ったのかをみていくことにしよう（表3-1-1）。全体としては、「行政からのお知らせ（広報など）をみて」がもっとも多く（31.2%）、以下、「友人・知人から聞いて」（28.7%）、「行政からの働きかけを受けて」（15.0%）となっている。全体の約75%、4人に3人の人が、これらの3つの方法で活動について知ったことになる。

表3-1-1 性別、年代別、居住地別にみた活動の情報源 (%)

	行政からのお知らせ	行政からの働きかけ	新聞などの記事	宮崎県のHP	みんなのくらしタ-ミナルのHP	友人・知人から	その他	無記入	計
全体	31.2	15.0	8.8	3.8	2.5	28.7	10.0	0.0	100.0
男	30.5	20.3	6.8	3.4	1.7	25.4	11.9	0.0	100.0
女	30.0	0.0	15.0	5.0	5.0	40.0	5.0	0.0	100.0
20代※1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
30代※2	25.0	25.0	25.0	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	100.0
40代	26.3	15.8	10.5	0.0	0.0	31.6	15.8	0.0	100.0
50代	34.8	8.7	0.0	4.3	4.3	34.8	13.1	0.0	100.0
60代	30.6	17.4	8.7	4.3	4.3	30.4	4.3	0.0	100.0
70代以上※3	49.9	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	100.0
都城市	27.3	9.1	0.0	0.0	0.0	63.6	0.0	0.0	100.0
西米良村	42.1	15.8	10.5	10.5	5.3	15.8	0.0	0.0	100.0
諸塚村	53.4	20.0	0.0	0.0	0.0	13.3	13.3	0.0	100.0
日之影町	33.3	26.7	6.7	0.0	0.0	13.3	20.0	0.0	100.0
五ヶ瀬町	5.9	5.9	17.6	5.9	5.9	41.2	17.6	0.0	100.0
その他※4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0

※1母数の実数は1。 ※2母数の実数は8。 ※3母数の実数は6。 ※4母数の実数は1。

これを、性別にみると、男性は、全体の結果と同様の結果になっているが、女性の場合は、「友人・知人から聞いて」が40.0%ともっとも多くなっている。また、女性の場合は、「行政からの働きかけを受けて」という人はみられず、「新聞などの記事をみて」という人が15.0%みられた。年代別にみると、40代から60代までで、「行政からののお知らせ」と「友人・知人」がいずれも約30%と高くなっている。また、居住地別にみると、都城市と五ヶ瀬町では、「友人・知人」が高く（それぞれ63.6%、41.2%）なっており、諸塚村、西米良村では、「行政からののお知らせ」が高くなっている（それぞれ53.4%、42.1%）。

②活動の必要性

次に、中山間盛り上げ隊のような活動が必要であると考えられているかをみてみよう。「とても必要」と考えている人が70.0%と多く、「どちらかといえば必要」を合わせると、97.5%の人に必要であると考えられている（表3-1-2）。このような活動の必要性は、かなり高いといえることができる。

表3-1-2 性別、年代別、居住地別にみた活動の必要性 (%)

	とても必要だと思う	どちらかといえば必要だと思う	どちらかといえば必要だとは思わない	必要だとは思わない	無記入	計
全体	70.0	27.5	2.5	0.0	0.0	100.0
男	67.8	28.8	3.4	0.0	0.0	100.0
女	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	100.0
20代※1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
30代※2	62.5	37.5	0.0	0.0	0.0	100.0
40代	63.1	31.6	5.3	0.0	0.0	100.0
50代	69.6	30.4	0.0	0.0	0.0	100.0
60代	74.0	21.7	4.3	0.0	0.0	100.0
70代以上※3	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	100.0
都城市	81.8	18.2	0.0	0.0	0.0	100.0
西米良村	73.7	26.3	0.0	0.0	0.0	100.0
諸塚村	46.7	46.7	6.6	0.0	0.0	100.0
日之影町	66.7	26.6	6.7	0.0	0.0	100.0
五ヶ瀬町	82.4	17.6	0.0	0.0	0.0	100.0
その他※4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

※1 母数の実数は1。 ※2 母数の実数は8。 ※3 母数の実数は6。

※4 母数の実数は1。

これを、性別にみると、男性よりも女性の方が、必要性を強く感じているようである（「とても必要」の比率が、男性は67.8%で、女性は80.0%）。年代別にみると、「とても必要」の比率が、30代から50代で、70%を下回っており、他の年代と比べると若干低くなっているが、いずれも60%以上と比較的高い値にはなっている。居住地別にみると、「とても必要」の比率は、五ヶ瀬町（82.4%）と都城市（81.8%）で80%を超えているのに対して、諸塚村では、46.7%と他の地域と比べると低くなっている。しかし、「とても必要」と「どちらかといえば必要」を合わせると、いずれの地域でも90%を超える値となっている。

③活動の評価

各地域で実施された中山間盛り上げ隊の活動に対する評価は、「とても良かった」が81.2%と高く、「どちらかといえば良かった」を合わせると、97.4%と非常に高い評価と

なっている（表 3-1-3）。

表 3-1-3 性別、年代別、居住地別にみた活動の評価 (%)

	とても良かったと思う	どちらかといえば良かったと思う	どちらかといえば良くなかったと思う	良くなかったと思う	無記入	計
全体	81.2	16.2	1.3	0.0	1.3	100.0
男	79.7	16.9	1.7	0.0	1.7	100.0
女	85.0	15.0	0.0	0.0	0.0	100.0
20代※1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
30代※2	75.0	12.5	0.0	0.0	12.5	100.0
40代	84.2	10.5	5.3	0.0	0.0	100.0
50代	69.6	30.4	0.0	0.0	0.0	100.0
60代	87.0	13.0	0.0	0.0	0.0	100.0
70代以上※3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
都城市	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0	100.0
西米良村	89.4	5.3	0.0	0.0	5.3	100.0
諸塚村	46.7	46.7	6.6	0.0	0.0	100.0
日之影町	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
五ヶ瀬町	82.4	17.6	0.0	0.0	0.0	100.0
その他※4	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0

※ 1 母数の実数は 1。 ※ 2 母数の実数は 8。 ※ 3 母数の実数は 6。

※ 4 母数の実数は 1。

これを性別にみると、「とても良かった」の比率は、男性（79.7%）よりも女性（85.0%）の方が若干高くなっている。年代別にみると、「とても良かった」の比率は、50代で他の年代よりも若干低くなっている（69.6%）。居住地別にみると、「とても良かった」の比率が、日之影町で 100.0%、都城市で 90.9%と 90%を超えており、他の地域と比べて低くなっている諸塚村（46.7%）でも、「どちらかといえば良かった」を合わせると 90%を超える値となっている。

また、どのような点が良かったのかという自由記述をみると、人手が不足しているところに、人手が増えて「助かった」とする意見や、「活気づいた」「盛り上がった」とする意見が多くみられた他、「地域住民（受け入れる側）に刺激」となった意見も複数みられた。特に、「最初は他力本願なような情けない気がしていたが、実際に関わってみると改めて自分の足元を見直すいい機会となった」というように、本事業の目的の 1 つである「住民が自らの地域を分析し、将来の目指す姿を考える」ということにつながるような意見も出てきている。この意見は、諸塚村からの意見であり、諸塚村で、活動の評価、必要性、継続希望の値が他の地域よりも若干低くなっているのは、逆に高い意識の現れとみられることもできるかもしれない。

④活動の継続希望

中山間盛り上げ隊のような活動を今後も継続して欲しいと思うか、ということについては、「継続して欲しい」と思うの比率が、82.4%と高く、「どちらかといえば継続して欲しい」と思うを合わせると、98%を超える非常に高い値となっている（表3-1-4）。

表3-1-4 性別、年代別、居住地別にみた活動の継続希望（%）

	継続して欲しいと思う	どちらかといえば継続して欲しいと思う	どちらかといえば継続して欲しいとは思わない	継続して欲しいとは思わない	無記入	計
全体	82.4	16.3	1.3	0.0	0.0	100.0
男	83.0	15.3	1.7	0.0	0.0	100.0
女	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	100.0
20代※1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
30代※2	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	100.0
40代	73.6	21.1	5.3	0.0	0.0	100.0
50代	91.3	8.7	0.0	0.0	0.0	100.0
60代	82.6	17.4	0.0	0.0	0.0	100.0
70代以上※3	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	100.0
都城市	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0	100.0
西米良村	89.5	10.5	0.0	0.0	0.0	100.0
諸塚村	66.6	26.7	6.7	0.0	0.0	100.0
日之影町	93.3	6.7	0.0	0.0	0.0	100.0
五ヶ瀬町	76.5	23.5	0.0	0.0	0.0	100.0
その他※4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

※1母数の実数は1。 ※2母数の実数は8。 ※3母数の実数は6。

※4母数の実数は1。

これを性別にみると、「継続して欲しい」の比率は、女性（80.0%）よりも男性（83.0%）の方が若干高くなっているが、大きな差はみられない。年代別にみると、「継続して欲しい」の比率は、30代（75.0%）と40代（73.6%）と比較的若い年代で、他の年代と比べて低くなっている。居住地別にみると、「継続して欲しい」の比率が90%を超えているのは、日之影町（93.3%）と都城市（90.9%）で、一番低い諸塚村でも66.6%となっている。

⑤活動内容に対する希望

それでは、具体的にどのような活動内容に希望が高いのかをみていくことにしよう。中山間盛り上げ隊の活動の例として、あらかじめ示されている7つの活動についてみると、希望する比率がもっとも高いのは、「祭り・イベントの補助等」（86.2%）で、次いで、「草刈りなど集落の環境保全活動」（74.9%）であった（表3-1-5）。逆に、「集落

における水源地の管理」(30.0%)、「伝統芸能の継承活動」(36.2%)、「鳥獣害防除のネットの設置等」(36.3%)については、希望するの比率が30%台にとどまっている。

表3-1-5 活動内容に対する希望(1)－住民－ (%)

	希望する	どちらとも いえない	希望しない	無記入	計
草刈りなど集落の環境保全活動	74.9	13.8	7.5	3.8	100.0
農作業の手伝い	43.7	33.7	16.3	6.3	100.0
鳥獣害防除のネットの設置等	36.3	42.4	15.0	6.3	100.0
集落における水源地の管理	30.0	42.4	18.8	8.8	100.0
植栽・下刈り等の森林保全活動	49.9	38.8	7.5	3.8	100.0
祭り・イベントの補助等	86.2	11.3	2.5	0.0	100.0
伝統芸能の継承活動	36.2	41.2	16.3	6.3	100.0

また、これまで例として示されていない新しい活動として、4つの活動について、自分たちの地域でも行われると良いと思うかをみると、中山間地域での活動に都市部の親子が参加するなどの「地域間交流活動」(66.2%)、高齢者の見守り、サロンへの協力などの「高齢者福祉の活動」(57.4%)の順に高かった(表3-1-6)。

表3-1-6 活動内容に対する希望(2)－住民－ (%)

	良いと思う	どちらとも いえない	そうは思わ ない	無記入	計
学校支援の活動	43.7	42.5	5.0	8.8	100.0
高齢者福祉の活動	57.4	36.3	1.3	5.0	100.0
子育て支援の活動	36.2	51.2	3.8	8.8	100.0
地域間交流活動	66.2	28.8	0.0	5.0	100.0

(2) 中山間盛り上げ隊－盛り上げ隊員向け－調査の結果と分析

①活動の情報源

まず、中山間盛り上げ隊の隊員が、この活動を、どのようにして知ったのかをみると、その方法は多様であり、もっとも多い「行政からのお知らせ」でも26.4%であった(表3-2-1)。次いで、「新聞などの記事」と「その他」がともに15.3%となっている。

これを性別にみると、男性では、「行政からのお知らせ」の比率が32.0%と高くなっている。それに対し、女性では、「その他」(27.4%)に続いて、「みんなのくらしターミナルのホームページ」が22.7%と、男性(6.0%)と比べて高くなっている。

なお、隊員向けの調査では、隊員の居住地が非常に多様で、宮崎市以外は、最大でも6サンプルしかない(第2章表2-7参照)ため、ここでは、居住地別の分析はおこなわないこととした。

表3-2-1 性別、年代別にみた活動の情報源 (％)

	行政からのお知らせ	行政からの働きかけ	新聞などの記事	宮崎県のHP	みんなのくらしターミナルのHP	友人・知人から	その他	無記入	計
全体	26.4	6.9	15.3	12.5	11.1	12.5	15.3	0.0	100.0
男	32.0	10.0	14.0	16.0	6.0	12.0	10.0	0.0	100.0
女	13.6	0.0	18.2	4.5	22.7	13.6	27.4	0.0	100.0
10代※1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
20代※2	16.7	0.0	33.2	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	100.0
30代	6.7	6.7	13.3	13.3	26.7	13.3	20.0	0.0	100.0
40代	34.9	13.0	4.3	8.7	13.0	17.4	8.7	0.0	100.0
50代	33.4	4.8	19.0	14.3	0.0	9.5	19.0	0.0	100.0
60代以上※3	33.3	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	100.0

※1 母数の実数は1。 ※2 母数の実数は6。 ※3 母数の実数は6。

②活動の必要性

活動の必要性については、「とても必要」の比率が84.7%と非常に高く、(1)でみてきた地域住民の値(70.0%)よりも高くなっている(表3-2-2)。

表3-2-2 性別、年代別にみた活動の必要性 (％)

	とても必要だと思う	どちらかといえば必要だと思う	どちらかといえば必要だとは思わない	必要だとは思わない	無記入	計
全体	84.7	13.9	0.0	0.0	1.4	100.0
男	82.0	16.0	0.0	0.0	2.0	100.0
女	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0	100.0
10代※1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
20代※2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
30代	73.3	26.7	0.0	0.0	0.0	100.0
40代	78.3	17.4	0.0	0.0	4.3	100.0
50代	90.5	9.5	0.0	0.0	0.0	100.0
60代以上※3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

※1 母数の実数は1。 ※2 母数の実数は6。 ※3 母数の実数は6。

これを性別にみると、「とても必要」の比率は、男性(82.0%)よりも女性(90.9%)の方が高くなっている。年代別にみると、「とても必要」の比率は、30代(73.3%)と40代(78.3%)で、他の年代と比べて若干低くなっている。

③活動の評価

中山間盛り上げ隊の活動に参加して、どのように感じたかについては、56.9%が「とても良かった」と感じており、これは、「参加していないので分からない」（29.2%）を除き、参加経験がある隊員だけに限定すれば、80%を超える値である（表3-2-3）。

表3-2-3 性別、年代別にみた活動の評価 (％)

	とても良かったと思う	どちらかといえば良かったと思う	どちらかといえば良くなかったと思う	良くなかったと思う	参加していないので分からない	無記入	計
全体	56.9	11.1	0.0	0.0	29.2	2.8	100.0
男	54.0	16.0	0.0	0.0	26.0	4.0	100.0
女	63.6	0.0	0.0	0.0	36.4	0.0	100.0
10代※1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
20代※2	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	100.0
30代	60.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	100.0
40代	52.2	17.4	0.0	0.0	30.4	0.0	100.0
50代	61.9	14.3	0.0	0.0	23.8	0.0	100.0
60代以上※3	50.0	16.7	0.0	0.0	0.0	33.3	100.0

※1 母数の実数は1。 ※2 母数の実数は6。 ※3 母数の実数は6。

これを性別にみると、「とても良かった」の比率は、男性(54.0%)よりも、女性(63.6%)の方が高く、女性の場合は、参加経験のある全ての隊員が「とても良かった」と感じることになる。年代別にみると、良かったと感じる比率に大きな差はないようであるが、「参加していないので分からない」の比率は、30代、40代以下の比較的若い年代で高くなるようである。

④参加（あるいは登録）のきっかけ

中山間盛り上げ隊に参加（あるいは登録）したきっかけについては、「自発的に」が83.3%と最も多かった（表3-2-4）。

これを性別にみると、男性の場合は、「自発的に」が86.0%と高く、他のきっかけが少なくなっているが、女性の場合には、「自発的に」が77.3%と最も高いものの、「友人・知人からの誘い」が13.6%、「他の活動に参加していたことから」が9.1%と、それぞれ10%前後あった。年代別にみると、「自発的に」がもっとも高くなっているのは、20代以上の全ての年代で共通であり、特に50代では、95.2%と高くなっている。「友人・知人からの誘い」については、20代、30代から40代までの年代で、それぞれ10%前後みられた。

⑤活動内容に対する希望

それでは、具体的にどのような活動内容に希望が高いのかをみていくことにしよう。中山間盛り上げ隊の活動の例として示されている7つの活動についてみると、希望する比率がもっとも高いのは、「祭り・イベントの補助等」（83.3%）で、次いで、「草刈りなど集落の環境保全活動」と「植栽・下刈り等の森林保全活動」の77.7%であった（表3-2

ー 5)。「祭り・イベントの補助等」と「環境保全活動」の比率が高いのは、(1)でみた地域住民の結果と共通している。また、地域住民の結果では、「集落における水源地の管理」、「伝統芸能の継承活動」、「鳥獣害防除のネットの設置等」については、希望するの比率が30%台にとどまっていたが、隊員の調査では、もっとも低い「鳥獣害防除のネットの設置等」でも、54.2%となっており、希望の比率が高いものとの差は、地域住民と比べて小さくなっている。

表3-2-4 性別、年代別にみた参加（あるいは登録）のきっかけ (%)

	自発的に参加 (登録)したい と思った	友人・知人か らの誘いがあ った	行政からの誘 いがあった	他の活動に 参加してい たことから	その他	無記入	計
全体	83.3	6.9	1.4	5.6	2.8	0.0	100.0
男	86.0	4.0	2.0	4.0	4.0	0.0	100.0
女	77.3	13.6	0.0	9.1	0.0	0.0	100.0
10代※1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
20代※2	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
30代	80.0	13.3	0.0	6.7	0.0	0.0	100.0
40代	82.7	8.7	4.3	0.0	4.3	0.0	100.0
50代	95.2	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0	100.0
60代以上※3	66.6	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	100.0

※1 母数の実数は1。 ※2 母数の実数は6。 ※3 母数の実数は6。

表3-2-5 活動内容に対する希望(1)－隊員－ (%)

	希望する	どちらとも いえない	希望しない	無記入	計
草刈りなど集落の環境保全活動	77.7	13.9	4.2	4.2	100.0
農作業の手伝い	76.3	16.7	5.6	1.4	100.0
鳥獣害防除のネットの設置等	54.2	33.3	9.7	2.8	100.0
集落における水源地の管理	56.9	29.2	11.1	2.8	100.0
植栽・下刈り等の森林保全活動	77.7	16.7	4.2	1.4	100.0
祭り・イベントの補助等	83.3	13.9	2.8	0.0	100.0
伝統芸能の継承活動	59.7	27.8	11.1	1.4	100.0

また、これまで例として示されていない新しい4つの活動が行われるとしたら、参加してみたいと思うかについては、中山間地域での活動に都市部の親子が参加するなどの「地域間交流活動」(79.1%)がもっとも高く、これは、地域住民の結果と共通している(表3-2-6)。その次に高かったのは、少人数の学校における学校行事への参加などの「学校支援の活動」(73.6%)で、もっとも高かった「地域間交流活動」との差は小さい。地域住民の「学校支援の活動」に対する希望は、43.7%であったことと比べると、ここには

若干の意識の差がみられるようである。

表 3-2-6 活動内容に対する希望 (2) - 隊員 - (%)

	そう思う	どちらとも いえない	そうは思わ ない	無記入	計
学校支援の活動	73.6	20.8	4.2	1.4	100.0
高齢者福祉の活動	54.2	36.1	8.3	1.4	100.0
子育て支援の活動	44.4	36.1	18.1	1.4	100.0
地域間交流活動	79.1	16.7	2.8	1.4	100.0

(3) 地域づくり意見交換会調査の結果と分析

①参加のきっかけ

地域づくり意見交換会に参加したきっかけとして、もっとも多かったのは、「みんなのまちをみんなでつくろうフォーラムの実行委員会に入っていた」の 41.7%であった (表 3-3-1)。「同フォーラムに参加して」と「その他」の 20.8%がそれに続き、「友人・知人から聞いて」も 16.7%あった。

表 3-3-1 性別、年代別、居住地別にみた参加のきっかけ (%)

	みんなのくらしターミナル のホームページ	友人・知人 から聞いて	フォーラムに 参加して	フォーラムの 実行委員会	その他	無記入	計
全体	0.0	16.7	20.8	41.7	20.8	0.0	100.0
男	0.0	23.3	20.0	36.7	20.0	0.0	100.0
女	0.0	5.9	23.5	53.0	17.6	0.0	100.0
20代※1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
30代	0.0	27.3	9.1	63.6	0.0	0.0	100.0
40代	0.0	8.3	8.3	66.7	16.7	0.0	100.0
50代※2	0.0	16.7	16.7	49.9	16.7	0.0	100.0
60代	0.0	21.4	28.6	14.3	35.7	0.0	100.0
70代以上※3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
宮崎市	0.0	45.4	27.3	18.2	9.1	0.0	100.0
延岡市	0.0	8.3	25.0	58.4	8.3	0.0	100.0
日向市※4	0.0	0.0	0.0	85.7	14.3	0.0	100.0
西都市※5	0.0	25.0	25.0	0.0	50.0	0.0	100.0
高鍋町※6	0.0	0.0	16.7	50.0	33.3	0.0	100.0
その他※7	0.0	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	100.0

※1 母数の実数は 2。 ※2 母数の実数は 6。 ※3 母数の実数は 3。

※4 母数の実数は 7。 ※5 母数の実数は 8。 ※6 母数の実数は 6。 ※7 母数の実数は 4。

これを、性別にみると、女性の場合は、「フォーラムの実行委員会」が 53.0%と男性

(36.7%) よりも高くなっている。「友人・知人から聞いて」は、男性で 23.3%と高くなっているが、女性の場合は 5.9%と低くなっている。年代別にみると、「フォーラムの実行委員会」が 30 代 (63.6%) と 40 代 (66.7%) で特に高くなっている。居住地別にみると、日向市 (85.7%)、延岡市 (58.4%)、高鍋町 (50.0%) では、「フォーラムの実行委員会」がもっとも高くなっているが、宮崎市の場合は、実行委員会よりも、「友人・知人」(45.4%) や「フォーラムに参加して」(27.3%)の方が高くなっている。

②活動の必要性

地域づくり意見交換会のような活動の必要性については、「とても必要」が 85.4%と最も高く、「どちらかといえば必要」を合わせると、100%に達している(表 3-3-2)。

これを性別でも、大きな差はみられない。年代別にみると、40 代 (75.0%) と 70 代以上 (66.7%) で、「とても必要」の比率が他の年代よりも若干低くなっている。居住地別にみると、延岡市で、「とても必要」の比率が 66.7%と、他の地域と比べると若干低くなっている。

表 3-3-2 性別、年代別、居住地別にみた活動の必要性 (%)

	とても必要 だと思う	どちらかとい えば必要 だと思う	どちらかとい えば必要だ とは思わない	必要だとは思 わない	無記入	計
全体	85.4	14.6	0.0	0.0	0.0	100.0
男	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	100.0
女	88.2	11.8	0.0	0.0	0.0	100.0
20代※1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
30代	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0	100.0
40代	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	100.0
50代※2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
60代	85.7	14.3	0.0	0.0	0.0	100.0
70代以上※3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	100.0
宮崎市	81.8	18.2	0.0	0.0	0.0	100.0
延岡市	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	100.0
日向市※4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
西都市※5	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
高鍋町※6	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	100.0
その他※7	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

※1 母数の実数は 2。 ※2 母数の実数は 6。 ※3 母数の実数は 3。

※4 母数の実数は 7。 ※5 母数の実数は 8。 ※6 母数の実数は 6。

※7 母数の実数は 4。

③活動の評価

地域づくり意見交換会に参加してみて、どのように感じたかについては、「とても良かった」が 77.0%でもっとも高く、「どちらかといえば良かった」(14.6%)を合わせると、90%を超える高い評価となっている(表 3-3-3)。

これを性別にみると、「とても良かった」の比率は、男性（80.0%）の方が女性（70.6%）よりも若干高くなっている。年代別にみると、「とても良かった」の比率は、60代（64.3%）以上の年代では、60%台にとどまり、他の年代よりも低くなっている。居住地別にみると、「とても良かった」の比率が、延岡市で33.3%と低くなっている。ただし、この場合も、「どちらかといえば良かった」を合わせると、良かったとする評価が80%を超えている。

また、どのような点が良かったのかという自由記述をみると、まず、「このような機会がなければ、地域のことを考えなかった」という意見があり、さらには、「何気ない地域の動きを気にかけるようになった」「地域のことを考えるようになった」との意見がみられた。そして、「ひとりひとりが当事者として意識して行動することが大事だと改めて感じた」「自分達一人一人が主役であることを痛感した」との意見もあった。これらの意見は、本事業が目的としている、「当事者意識（の醸成）」の1つの現れであり、「住民自らの主体的な行動による地域づくり」へとつながる重要なワンステップであるといえるであろう。

表3-3-3 性別、年代別、居住地別にみた活動の評価 (%)

	とても良かったと思う	どちらかといえば良かったと思う	どちらかといえば良くなかったと思う	良くなかったと思う	無記入	計
全体	77.0	14.6	6.3	0.0	2.1	100.0
男	80.0	13.3	6.7	0.0	0.0	100.0
女	70.6	17.6	5.9	0.0	5.9	100.0
20代※1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
30代	72.7	18.2	0.0	0.0	9.1	100.0
40代	83.4	8.3	8.3	0.0	0.0	100.0
50代※2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
60代	64.3	21.4	14.3	0.0	0.0	100.0
70代以上※3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	100.0
宮崎市	72.7	9.1	9.1	0.0	9.1	100.0
延岡市	33.3	50.0	16.7	0.0	0.0	100.0
日向市※4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
西都市※5	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
高鍋町※6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
その他※7	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

※1 母数の実数は2。 ※2 母数の実数は6。 ※3 母数の実数は3。

※4 母数の実数は7。 ※5 母数の実数は8。 ※6 母数の実数は6。

※7 母数の実数は4。

④活動の継続希望

活動の継続希望については、「継続して欲しい」が77.0%と最も高く、「どちらかといえば継続して欲しい」（18.8%）を合わせると、95%を超えている（表3-3-4）。

これを、性別にみると、ほぼ同様の結果となっており、大きな差はみられない。年代別にみると、「継続して欲しい」の比率が、30代で54.5%と低くなっている。居住地別にみ

ると、「継続して欲しい」の比率が、延岡市（58.3%）と宮崎市（63.6%）で60%前後と、他の地域に比べて低くなっている。

表3-3-4 性別、年代別、居住地別にみた活動の継続希望（%）

	継続して欲しいと思う	どちらかといえは継続して欲しいと思う	どちらかといえは継続して欲しいとは思わない	継続して欲しいとは思わない	無記入	計
全体	77.0	18.8	0.0	0.0	4.2	100.0
男	76.7	20.0	0.0	0.0	3.3	100.0
女	76.5	17.6	0.0	0.0	5.9	100.0
20代※1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
30代	54.5	45.5	0.0	0.0	0.0	100.0
40代	83.4	8.3	0.0	0.0	8.3	100.0
50代※2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
60代	78.6	14.3	0.0	0.0	7.1	100.0
70代以上※3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	100.0
宮崎市	63.6	36.4	0.0	0.0	0.0	100.0
延岡市	58.3	25.0	0.0	0.0	16.7	100.0
日向市※4	85.7	14.3	0.0	0.0	0.0	100.0
西都市※5	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
高鍋町※6	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	100.0
その他※7	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

※1母数の実数は2。 ※2母数の実数は6。 ※3母数の実数は3。

※4母数の実数は7。 ※5母数の実数は8。 ※6母数の実数は6。

※7母数の実数は4。

（4）調査結果にみられる本事業の成果の評価

（1）から（3）まで、各調査の結果をみてきたが、中山間盛り上げ隊と地域づくり意見交換会の両活動については、いずれもその必要性が強く感じられており、活動の評価も高いものとなっていた。また、今後の継続希望も高いものであった。これらのことから、本事業は、初年度として、一定の成果をあげてきていると評価することができるであろう。

先に、（1）の③で取り上げているが、「最初は他力本願なような情けない気がしていたが、実際に関わってみると改めて自分の足元を見直すいい機会となった」との意見は、当事者意識の醸成の萌芽として、大変勇気づけられる意見であるが、それだけでなく、この事業を進めていく上で、1つの重要な視点を提供しているものと思われる。それは、本事業で、盛り上げ隊を派遣するステップ（第1章の（3）参照）として設定されている、次の①～③の関係のとらえ方についてである。

本事業で設定されている盛り上げ隊派遣のステップ

- ①住民が自らの地域を分析し、将来の目指す姿を考える。
- ②行政依存から脱却し、主体的に行動する「自助」「互助」に取り組む。
- ③それでも不足するものを盛り上げ隊の支援により補う。

このステップは、普通に考えると、①から②へ、そして、②から③へという順序性があるものと考えられるが、この順序性は、単純に①、②、③という順番のワンサイクルで構成されるものでもなく、また、ワンサイクルで終了するものでもない。このサイクルは、ある活動（サイクル）の③のステップが、次の活動（サイクル）の①を産み出す起爆剤となり、いくつものサイクルがループしていくことで、活動が継続し、発展していくものであろう。はじめに、③を経験し、その良さを実感することなどによって、次の①の必要性が認識されたり、①への意欲が生じたりすることも少なくないはずである。①、②の結果、その不足を補うものとしての③というだけではなく、③を出発点にして、いかに①、②へと結び付けていくかという方向についても検討することは、本事業の成果を高める1つの鍵となるのではないだろうか。

本章の最後を、地域づくり意見交換会の参加者からの意見で、まとめることにしよう。「地域の一般の人が自らの意思で『よくしたい！』と行動する息吹を感じた。」この息吹が途絶えないように、この事業が継続・発展していくことを期待したい。

第4章 今後の課題

ここでは、各調査において、活動に際して困ったことや改善点、要望などとしてあげられたことをもとに、今後の課題を明らかにしていくことにしよう。以下にあげられる課題の中には、比較的容易に解決できるもの、実現できるものもあれば、実現が困難なものもあると思われる。これらの課題が、次年度以降の計画立案において、検討の材料となることを想定し、ここでは、それらの詳細な区別、検討は行わずに、課題を列挙していくことにする。

(1) テクニカルな課題

中山間盛り上げ隊と地域づくり意見交換会の活動を、よりスムーズに進め、より活発なものとするために必要と思われるテクニカルな課題には、以下のようなものがあげられる。

①中山間盛り上げ隊に関わるテクニカルな課題

中山間盛り上げ隊の隊員が、活動に参加することを難しくしている要因には、大きく2つのことがあげられるようである。1つは参加する日程の調整・確保の問題で、もう1つは活動場所までの移手段の問題である。活動に参加したい意欲はありながらも、これらの問題が阻害要因となり、実際には、活動に参加できずにいる隊員も多かった。

ア. 参加する日程の調整・確保の問題

特に、仕事を持っている隊員などは、参加したいと思う活動があっても、仕事の休みを取るためには、活動の予定が早く通知される必要がある。活動のスケジュールがあらかじめ分かるものについては、年間計画等で、早めに通知することも有効となりそうである。ただし、逆に、募集の締め切りが早すぎると、後でキャンセルすることを申し訳なく思い、参加申し込みを躊躇するケースもあるようである。参加可能な隊員の増加を図るためには、場合によっては、当日（あるいは数日前程度）の飛び入り参加も受け付けるなどの方法も検討する必要があるかもしれない。

また、活動（集合）時間が早い場合や、活動場所と隊員の居住地が遠い場合などには、朝の自宅の出発時刻が早くなりすぎることに、困難さを感じている隊員も多い。県内全域に隊員登録者の拡大を図り、活動場所と比較的近い地域の隊員とのマッチングを図る工夫が求められるであろう。

イ. 活動場所までの移手段の問題

隊員から困った点として、もっとも多くあげられたのは、活動場所までの移手段の問題であった。移手段がない、車の運転に自信がないなどの理由から、車の相乗りに対する要望は多かった。同じ地域から参加する隊員の情報があらかじめ分かるようになっていれば、それぞれが現地集合で移動するのではなく、あらかじめ居住地の近くで集合して、移手段を共有し、移動中にコミュニケーションが取れるといったメリットも指摘された。活動への参加前に、隊員相互で移手段の確認を行ったり、移手段の提供を求めたりすることができるような場を、電子掲示板（BBS）やメーリングリストなど ICT を活用して提

供することができればよいかもしれない（ただし、個人情報保護の問題や移動中の安全の確保といった問題を慎重に検討する必要がある）。

その他、集合場所がわかりにくいとの意見も多く、もっとわかりやすいところ、目立つところを集合場所に設定することや、事前に地図を配付することなどの対策が求められる。

②地域づくり意見交換会に関わるテクニカルな課題

地域づくり意見交換会の参加者からは、より深く議論を行うためには、当日のテーマ、資料等を事前に入手できるようにしてほしいとの意見が多くあげられた。これは、参加したその場で考えるだけでなく、事前によく考えて意見交換会に臨みたいという、意識の高まりの現れでもあるため、ここでも、ICTの活用などにより、何らかの対応を図ることが必要であろう。

また、次回の日程や次回のテーマについても、会の終わりにある程度決定しておくようにすればよいとする意見もあった。

（２）共通の課題－参加者の拡大と広報－

両活動に共通する課題としては、まず、参加者の拡大があげられるであろう。中山間盛り上げ隊については、先に述べたように多様な地域での活動が可能となるように、登録隊員の少ない地域や、活動場所となることが想定される地域の近隣地域での登録隊員の拡大を、特に重点的に進めることは1つの課題といえるであろう。地域づくり意見交換会についても、現在はまだ、地域づくりに対して意識の高い人のみが参加する傾向にある。この参加者層を拡大し、意識があまり高まっていない人も参加できる、参加したくなるような展開が望まれるであろう。

そして、よくいわれることではあるが、これらの参加者の拡大を図るためには、やはり、広報のあり方についての検討、工夫が求められることになるであろう。

（３）寄せられた要望への対応

上記の他にも、さまざまな要望が寄せられており、以下の全てに応えられるわけではないが、対応の必要性や可能性について検討することが大切であろう。

①盛り上げ隊の受け入れ側となる地域住民からの要望

- ・交流を深め、夜間にじっくり話し合いを行うことへの要望も多い。
→宿泊を伴う形での活動の可能性について検討することも必要ではないか。
- ・地域の側には、アルバイト料を支払ってでも派遣をお願いしたい現状もある。また、地域の人の中には、「タダでは頼めない」という意識もある。
→無償のものに加えて、低額の設定での活動のパターン導入の可能性を検討することも、将来的な事業の継続・自立に向けて必要になるかもしれない。

②盛り上げ隊の隊員からの要望

- ・隊員同士の交流会・親睦会を開催できるとよい。
- ・作業着持参で行っても、着替える場所がない。

③地域づくり意見交換会の参加者からの要望

- ・意見交換会に参加していて、途中から参加しなくなった人が、どういった理由で参加しなくなったのか（忙しいのか、意見の相違からなのかなど）のリサーチができればよい。

中山間盛り上げ隊等の効果測定委員会

代表 高橋 利行

平成22年3月発行
